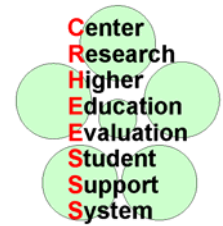


# 週刊センターニュース No.6



第 6 号 (2004 年 4 月 19 日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

共同学習会は、教職員の間で教育、研究、そしてその支援のあり方等について自由に議論する場です。どなたでも参加できます(可能な限り事前にご連絡ください)。

第 14 回 日時: 4 月 22 日 (木) 5 時限目 (16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟 2 階 大会議室

講師: 青野 透 大学教育開発・支援センター教授

題目: 「ミニツツペーパーの活用法」

企画の趣旨: 授業が始まり、各教員の授業改善の取組が行われていると思われる。受講生との応答関係の確立、毎回の授業ごとの授業評価そして授業改善、という二つの目的をもった、ミニツツペーパーの使用を紹介する。なお、この報告は、本年 3 月 1 日に開催された第一回金沢大学教育セミナーでの報告とその内容が重なるが、同セミナーにご参加いただけなかった方、さらには新任教員で授業法改善に模索されている方などを主たる参加者と考えている。

第 15 回 日時: 5 月 6 日 (木) 5 時限目 (16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟 2 階 大会議室

講師: 松井 秀治 共通教育課長

題目: 「金沢大学の新しい事務組織について」

企画の趣旨: 法人化に伴い、新しい事務組織が発足した。それぞれの所掌等について一人ひとりの教職員が理解しておかねば効率的な仕事はできない。情報の流れがスムーズにいかないと組織は停滞してしまう。学長が強調される、教員・職員のイクォールパートナーシップの実質的確立に向けた、最初の共同学習会とする。

## 第 3 回大学教育研究集会・第 10 回大学教育改革フォーラムに参加して

2004 年 3 月 20 日 (土) 京都大学において、第 3 回大学教育研究集会・第 10 回大学教育改革フォーラムに参加した。午前中開催の大学教育研究集会では、<授業公開研究部会>での報告「和歌山大学 F D における公開授業と授業検討会」(和歌山大学教育学部教授 川本治雄)、「信州大学における授業のピアレビューの試み」(信州大学教育システム研究開発センター助教授 西垣順子)および総括講演での「地方国立大学における F D の組織化(1)」(和歌山大学経済学部助教授 吉田雅章)が特に興味深かった。

和歌山大学についての報告、講演では、トップダウン的に大学内組織として設置された「全学 F D 推進委員会」とボトムアップ的に教員有志による動きから生まれた「魅力ある授業を研究する会」の両者の F D 活動がうまく連携し合って、全学的な F D 活動へと変わっていく課程が紹介された。また、信州大学からは、信州大学に適した「教育の評価と F D」の設計を目指し、試験的に「授業のピアレビュー」(教員相互による授業評価)が行われていること、および、その経験に基づいた「個々の授業に即した、きめ細やかな授業評価」、「評価よりも支援の充実」が求められていることなどの報告がなされた。

上記の報告、講演から、各大学での F D 活動が、これまでのような講演会(受講者参加型)や教員による勉強会(情報交換型)から、実際の授業を対象とした取り組みへと変化してきていることが実感できた。これからは、F D 活動により実効性をもたせるために、個々の教員が有している「授業方法」「授業進行ノ

ウハウ」を「授業方法データベース」として整備し、授業形態、受講人数、教室環境に応じた「授業方法」情報を教員へ提供し、教員が選択した「授業方法」が適正に実行できるように可能な限り支援する体制、部署、人員の整備について、金沢大学でも検討していきたい。実際に、山口大学大学教育センターは「授業改善相談室」を開設予定とのことである。

午後の大学教育改革フォーラムでは、絹川正吉国際基督教大学学長による基調講演が行われ、「教授会自治は大学教育の質の保証である（これこそが大学教育改革のマップ）」、「教授会ギルドを破壊せよ（無責任体制からの脱却）」、「特色ある大学教育支援プログラム」はその破壊力となりうる」という非常に刺激的なコメントがあった。これまで「教授会自治」の名のもと、対外的な説明責任を果たしていないと批判されてきた教授会が、これからはその「教授会自治」の責任で大学教育の質を保証していくという考え方は、従来とは異なる逆転の発想であり、衝撃的とさえ言えるものであった。また、大学教育改革の重要な要素である評価についても「アメリカの大学では自己評価は自己主張である（それに対して認証評価団体が確認する）」という発言があった。この考え方は、評価を否定的にとらえる多くの大学人にとって、評価に対する新しい考え方の契機となるものと思われた。

基調講演に続いて、3件の話題提供と1件の指定討論を通して大学教育改革について興味深い報告とディスカッションが行われた。中でも、京都大学高等教育研究開発推進センター林哲介教授による「大学教育評価の発展方向」（話題提供1）が印象的であった。ここでは、以下の2点について注意喚起がなされた。

1. 評価の名のもと、教育システム自体および資源配分の効率化が迫られているが、大学人が自らの責任で「特色ある大学教育支援プログラム」を「大学間FD」と位置づけ、大学人による大学改革へつなげるという姿勢が重要である。
2. 評価については、今後、「個々の大学が個性豊かな達成目標を設定し、自己評価する」というシステムの整備だけでなく、大学教育における多面性、多様性を失わない形で「評価文化」をさらに醸成していく必要があり、この醸成された「評価文化」のもと、大学は、社会に対して教育成果を公開・発信していく必要がある。

確かに、「評価文化」という概念はこれまでの日本の大学界ではなじみの薄いものであったが、近年の大学改革の流れの中で避けては通れないものであり、また、現在、文部科学省で審議されている「国際的な大学の質保証」という問題との関連でも非常に重要なものとなっている。基調講演でも述べられていたように「自己評価は自己主張」であり、また「教育に対して責任を果たしていることを公的に発表、広報するもの」であるという捉え方で「評価文化」の醸成に努めるという意識が大学人に必要であるように思われた。（文責 堀井）

### **角間ランチョンセミナー開催記録（4月12日～4月16日分）**

学生諸君が、大学生活での動機付けや学習、研究に必要な知識を得るための昼食時間帯のミニ講座です。

2004.4.12 「ゼミってなに？大学らしい授業です。」 三摩愛子（「ゼミ恋愛論」企画学生）

2004.4.13 「目指すぞ 関西一部リーグ」 アメリカンフットボール部

2004.4.14 「困ったら、悩んだら アドバイス教員へ、相談室へ」 青野透（大学教育開発・支援センター）

2004.4.15 「ネットワーク利用の心得 法律違反はいけません」 鈴木恒雄（総合メディア基盤センター）

2004.4.16 「ネットワーク利用の心得 ネットワークの危険性」 松本豊司（総合メディア基盤センター）

### **センター教員活動記録（4月12日～4月18日分）**

2004.4.13 「大学機関別認証評価に係るシンポジウム」参加（主催：大学評価・学位授与機構）

会場：日本教育会館「一ツ橋ホール」（早田）

2004.4.14 2004年度第4回角間ランチョンセミナーにて

「困ったら、悩んだら アドバイス教員へ、相談室へ」講義担当（青野）

2004.4.15 第13回大学教育開発・支援センター共同学習会開催（発表者 西山）